

全組合員の団結で申9号「2023年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」の

要求満額獲得に向けた地本声明！

本日、私たち JR 東労組八王子地本は第16回執行委員会を開催し、組合員・家族、社員の利益と JR 東日本会社(グループ含)が魅力ある経営を再構築するために最後までたたかい抜くことを意思統一し「声明」を发出する。

2023年2月17日、私たちは申9号「2023年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」を行い、これまで2回の交渉を行っている。

3月2日、第1回交渉では組合からの趣旨説明を行い、経営陣からは現状認識と基本スタンスが示された。

3月7日、第2回交渉を開催し、中央本部に届いた組合員、未加入者からの「7,500件を超える本音の声」を武器に経営陣と向き合ってきた。

しかし、経営陣は「通期の業績は必ずしも楽観視できるものではない」「当初計画した目標までは達成していない」「モチベーションは賃金引き上げだけではなく、様々な施策など仕事を通じた達成感と充実感もある」など主張し、第1回交渉と同様「慎重」論を繰り返すスタンスは、私たちが要求根拠とした現実とは一致せず「組合員・家族、社員の努力に報いる」姿勢とは大きくかけ離れ、怒り心頭であり我慢の限界だ。

私たちは2月1日・2日「春闘学習会」の開催、また各職場では「座談会」等を開催している。

職場の本音の声は「物価上昇の現実をみていない。黒字でも出し渋るのはいい加減にしてほしい」「この間、我慢だけだった。離職増は経営陣の責任」「どの状況になったら満額なのか、満額近く支給するのか、ハッキリすべきだ」「経営陣は私たちを守ってくれないのが分かった。モチベーションが下がっている。残念」「過去最高の働き度に応えていない」など、経営陣への怒りと落胆の「本音の声」が多く寄せられている。

そして忘れてはならない。

申し入れ・交渉前の2023年1月5日、経済三団体の新年祝賀会において11社の企業トップが賃上げへの考え方をマスコミから聞かれ、10社が「賃上げする」「賃上げに前向き」な姿勢を示したが、JR 東日本だけが「賃上げに慎重」との姿勢を明らかにした。JR 東日本で働く私たちの現状に耳を傾けることよりも先に、世論に「慎重」姿勢を明らかにしたのだ。同時に春闘を前にして、入社4年目までの社員に「初任給特別措置の実施」をする考えを示し、「賃上げムード」から目をそらす目的があるのではないかとの意見も飛び交っている。

経営陣と軌を一にし、一部社友会幹部は経営幹部と「意見交換会」を開催、依然と「低額相場」づくりに加担しているのは明らかだ。こうした社友会の役割・活動路線は「大多数の声」として活用され「総合労働条件の悪化」の一途に突き進むものであり、労働者・家族の立場に立たず「経営姿勢」を容認・黙認する社友会を認めることはできない。

経営陣は、今こそ「人間的」で「魅力的」な JR 東日本会社・グループへと発展し持続的成長を目指していくため、私たちの要求＝職場の「本音の声」を真摯に受け止め「納得感」「充実感」ある回答をすべきである。

一. JR 東労組八王子地本は「2023年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」交渉を全力で創り出す。

私たちは「妥協」も「諦め」もしない。それは『仲間・家族』の利益を守る強い自覚と決意があるからである。

一. 私たちは『労働組合として当たり前』に要求し、交渉し、多くの仲間と連帯し活動をしていく。

そして経営陣の「慎重」論ならびに『低額相場』を形成する社友会活動・姿勢を認めない。

一. 一切の「賃金・労働条件の実質引き下げ状態」を認めない。

現実から出発し、危機意識をもって経営に立ち向かい、「変革2027」「JR構造改革」に対し『新たな施策に対する5本柱』『新生 JR 東労組運動宣言』の意義を確立して向かっていく。

一. 組合未加入者にも寄り添い、危機意識を共有し、労働組合の役割と必要性と一緒に考え、JR 東労組への再加入・新規加入による組織強化・拡大を通じて『1万人組織』を目指す。

仲間のため、家族のため、共にたたかい抜こう！

2023年3月9日
東日本旅客鉄道労働組合
八王子地方本部
第16回執行委員会